

をとじたい。

(A5判 一六五頁 昭和四五年一月七日刊
非売品)

(佐藤 宗尊)

三木市史

三木市は加古川の支流美濃川流域に属する、旧三木町・久留美村・別所村・志染村・細川村・口吉川村が合併して昭和二十九年に発足した市で、金物業で有名な人口四万の小都市である。本書は市制十周年記念事業として調査・研究が開始され、六年を経て完成された。

本書の特徴は、通史編と各説編とにほぼ二分されていることである。通史編は「三木市の自然と集落」「伝承の世界」に続いて、古代・中世・近世・近代の三木地方、及び「三木市の発展」の七章からなっている。最近の地方史誌類は歴史的な叙述を先史時代の遺物・遺跡からはじめるのが普通だが、ここでは「播磨風土記」・記紀などによって郡の起りや伝説などから説き起している点が変わっている。これは考古学的な

研究の殆んどが各説編の方にまわったため、第三章「古代の三木地方」で古墳時代の説明が簡単になされているにとどまる。

中世以前の在地の文書がないため、中世の章の叙述は簡単だが、藤原定家の所領であった細川庄の興廃を中心に三木地方の中世史が要領よくまとめられている。近世の三木の町は地子諸役免許の地であったが、その特権の根拠となったのは天正八年の秀吉の制札であったという。これが最古の在地文書であるが、落剥の甚しいこの制札の写真がコロタイプ版の口絵に出ている。見栄えのよい墨跡や肖像画の代りにこれを巻頭に用いた編者の苦心が思われる。近世の町方の動きは、商人仲間の組織・三木川通船をめぐる争論・金物業の発展など、適確に紹介されている。近代を扱った第六章は、統計表を数多く引用してくわしく叙述してあるが、三木地方全体としての歴史は「行政区画の変遷」に限られている。具体的な内容は人口・農業・工業・商業・交通と通信・教育・民生・警察と消防、の各章に分けて記されているので、例えば「商業」の節のように現状分析中心の部分と「教育」の如く歴史的推移中心の部分とのアンバラ

ンスが生じると、近代の三木の発展のイメージがまとまっていらないところがある。各説編は、一「考古学上からみた三木地方(加古川流域)の古代」・附載として「吉田遺跡」・「加古川流域須恵器編年」・「三木市の古窯と経塚」、二「条里制遺構の分布」・「三木戦記」・四「宝蔵と惣年寄十河家」・五「鍛冶屋と金物問屋」・六「文化財」・七「民俗」・八「三木の言語」・九「三木市民の生活圏」・十「労働力人口としてみた三木市民」・十一「三木市の植物と昆虫」からなっている。気附いた点を二・三あげると、一は三木市域にこだわらず加古川流域全般を対象とした力作である。

遺跡の発掘調査の成果をくわしく紹介しながら、最新の考古学の理論を援用して、弥生時代の「ムラ」から「地域的政治集団」への発展を東播地方に具体化し、大和政権の歴史の中に位置づける努力を行なっている。八は日本語地図作成のために一古老の言語を調査したもので、このようにくわしい調査データの紹介は市史としてはめずらしいが、方言を通じて地方色をゆたかに誌面に反映できるいい企画である。九は商圏の実地調査報告で、三木現市域が生活圏

の實際に合致しているという結論が出ていて興味深い。各説編に思いついたスペースをさいたため、堅実な調査と現地の協力の成果が実って、地方色豊かで資料的価値の高いものとなっている。

(A5判 八二五頁 昭和四五年一月 三木市役所刊)

(村田 修三)

会 告

会費の値上げについて

本会会費は、昭和四〇年いろいろ据置きのままとなっておりますが、この間、印刷・用紙・製本代をはじめ諸物価の値上りは異常なものがあります。本会では、できます限りの経費節減をかさね、会費の値上りとならぬよう努力を重ねてまいりましたが、もはやそれも限界に達してしまいました。やむなく次号(五四巻一号)より、次の通り値上げをいたしますので、何とぞご了承下さるよう、お願い申し上げます。

記

旧会費 年間一、五〇〇円
(一号当り二五〇円)

新会費 年間一、八〇〇円
(一号当り三〇〇円)

旧定価 一号当り三〇〇円

新定価 一号当り三五〇円

委員会だより

◇ ようやく、六号に到着いたしました。三号・四号あたり、ちよつと薄い号がつづいたものですから、本号、近來にないページ数とし、お約束の年間九〇〇ページを超えました。

◇ 本号「史林」では久方ぶりに口絵にコロタイプを使用いたしました。紙背文書にて裏打紙もあつて写真がみえにくいので何とかならないか、という著者のお申出により、あえてコロタイプとした次第です。著者にも読者各位にもなるべく鮮明な誌面をこれが「史林」の一モットーでもあるわけです。コロタイプの口絵写真掲載御希望の方

方は、どうぞ「史林」へご寄稿下さい。

◇ 別面所報の通り、本誌もついに値上げのやむなきにいたりしました。本誌、実のところ刊行のおくれから、今までに値上げをしそこなつてしまいました。くどくど申し上げるまでもなく、このご時世にてご了解いただけるかと思うのですが、よろしく御協力をお願いいたします。

一九七〇年一月二五日印刷
一九七〇年二月一日発行 定価三〇〇円

史 林 (第五三巻第六号)

発行人 史 学 研 究 会

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

理事長 織 田 武 雄

印刷所

京都市下京区西七条御所ノ内中町五〇
中村印刷株式会社